

京林大だより

No.2



絵：京林大生 熊走君

「京丹波町いきいき大学」の講座を担当しました

7月6日金曜日、京丹波町教育委員会主催「京丹波町いきいき大学」の第2回講座が本校にて行われました。参加されたのは町内在住、65歳以上の28名です。

講座では、京都の林業の現状と課題、そしてその中でこの春開校した本校が果たす役割についてご紹介しました。日吉町森林組合や京丹波森林組合の高性能林業機械が実際に山で稼働している映像をご覧になった参加者の中には、若い頃植林に精を出された方も多く、今日の機械化の進む林業に興味深げなご様子。高性能機械の高速伐採の様子には「びっくりした」との声もあがりました。

その後、「薬になる木」としてクロモジやキハダ、マタタビなど7種を、実物を手にその効能などをご説明しました。山に囲まれた京丹波町にお住まいの方たちに



とって、紹介した木はどれも身近なものばかり。参加者は覚えた知識を一つでも多く持ち帰って役立てようと、熱心に聴いていらっしゃいました。



学生さんへの貸部屋情報をお寄せください

本校では来春入学する学生さんを受け入れてくださる貸部屋の情報を求めています。

昨年度は林大生の下宿不足の問題を京都新聞に取り上げていただいたこともあり(2012年2月9日 京都新聞 朝刊)、多くのお問い合わせをいただきました。そのうちいくつかのご家庭には、空き家などを学生さんの住まいとして提供していただいております。しかし、学生さんの住まいはまだ不足しています。

日本の森林の未来を守る夢を抱いて全国各地から集まる学生さんを、みなさんで応援していただけませんか？



● お願いするサポートの内容

日常生活を営める住まいの提供など

● 受入期間：1～2年(有償)

受け入れ家庭のご事情などを考慮の上、柔軟に対応させていただきます。

林業大学校は、地域の皆様との交流の環を広げてまいりたいと考えております。まずは一度お気軽にご相談ください。

お問合せ

京都府立林業大学校

TEL.0771-84-2401

京丹波町役場 和知支所

TEL.0771-84-0200

京林大の

ワンタビ

—京林大生のこぼれ—



今年4月、京都府立林業大学校に入学した森林林業科の1年生は総勢21名。そのうち10名が京丹波町和知地区で生活をしています。

親元を離れ下宿生活を始めた学生たちの食事を支えているのが、「レストラン 和」と「喫茶 まどい」の両店。朝と夜、実習などで体力を必要とする学生を心づかった、栄養とボリュームたっぷりの食事を用意してくださっています。

林業大学校ではこれから実習がますます本格化していきます。学生が元気に生活をおくっていける陰には、こういったお店のあたたかいご協力があるのです。



オープンキャンパス開催！

とき：8月4日（土） 10時45分～15時
場所：京都府立林業大学校

来春以降の本校への入学を検討されている方などを対象としたオープンキャンパスを開催します。詳しくは本校ホームページをご覧ください。

京都府立林業大学校HP
<http://www.pref.kyoto.jp/kyorindai/>

7月の講義予定

Pick Up!

7/12

御所・祇園祭 見学学習

7/25～27

林業・機械実務（府民の森ひよし）

（8月は夏休みです。）



校長室より

京都に林大、何故？

よく問われるところです。京都といえば古い都、その長い歴史を支えて来たのは街を取り囲む森林、それは京都という街を彩り、気品を与え、社寺等文化財の背景。大抵の人々の感じるのはそままで、でもそれだけではありません。

京都府全体に目を向ければ、府の森林面積率74%。全国10位（森林実面積27位）。京都府は日本の中でも森林が多いところなのです。とすれば、京都府は、誰しものが認める長野、北海道、岩手、岐阜、高知などの森林県と共通の今日的課題を持つこととなります。

例えば、最近の林業不振に基づく山村の活力低下、過疎・高齢化の問題。その一方で、水源涵養、国土保全など国民生活環境への貢献を強化、生物多様性保全を含めた自然環境維持、などの社会的要請、そしてシカの激増、マツ枯れに続くナラ枯れなどの森林被害も大きな課題です。

また、今日的话题の二酸化炭素問題。「京都議定書」(COP3-1997年)で、日本が約束した二酸化炭素削減6%の中3.8%は森林の吸収によるものですが、私の試算では、京都府の森林は、府全体の排出量の8%を吸収してくれているのです。

京都は森林の府、資源・環境・文化の森林府。そこに林業大学校、遅すぎたともいえるのです。

（校長 只木良也）